

# サイクリングによる瀬戸内圏の 魅力創出・対流促進 ～ Setouchi Velo 協議会の設立と今後の展開～

本州四国連絡高速道路株式会社 地域連携部

Setouchi Velo 協議会は、瀬戸内圏全体をサイクリングで自在に周遊できる、世界に誇るサイクリングの推進エリアとするため、瀬戸内圏 8 県と経済連合会、地方整備局や地方運輸局など約 30 の団体とともに 2022 年 10 月末に設立されました。

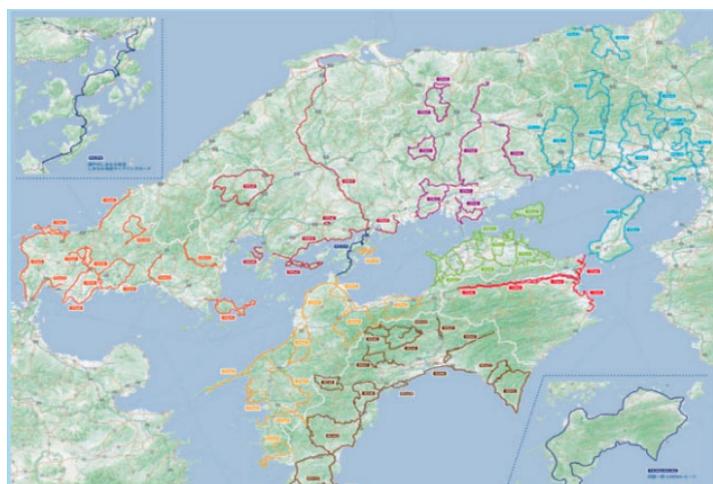
※ Velo (ヴェロ) はフランス語で「自転車」の意

本稿では、協議会設立の背景やその目的、今後の目指す姿を協議会の事務局の立場から紹介します。

## 1 瀬戸内圏のサイクリングの現況と協議会設立

瀬戸内圏には、日本を代表し世界に誇るナショナルサイクルルートとして最初に指定された「しまなみ海道」、淡路島を一周する通称「あわいち」や小豆島を一周する通称「まめいち」、四国 4 県を走破する「四国一周」、さらには瀬戸内の海沿いや島々をめぐるコースなど、風光明媚な瀬戸内を活かした多種多様なサイクリングルートが多数存在しており、毎年多くのサイクリストや観光客が瀬戸内にサイクリングで訪れます。

一方で、現在の瀬戸内圏域のサイクリングルート(図-1)を見ると、微妙につながっていないことがわかります。特に本州側のルートは南北に展開するものが多く、行政域を越えて東西につながっているルートはあまりありません。それぞれのサイクリングルートの設定主体が異なるためであり、ルート設定が主体毎になされているからでしょう。



(図-1) 瀬戸内圏域のサイクリングルート



(図-2) Euro Velo 全体図

TouN - eurovelo.com - Based on File:EuroVelo Routes (May 2009).svg, CC 表示 - 継承 4.0,  
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=97205202> による

欧州には、Euro Velo というヨーロッパ自転車連盟の推奨する自転車道路網があり、欧州全土を全長約 9 万 km、1 ルート 1000km 以上の 16 の長距離ルートでつないでいます。認定されたルートでは、計画が策定され、標識の設置やサービスレベルの目標設定等がなされており、サイクリングの普及・発展に向けた環境整備が着実に進展し、多くのサイクリストが各ルートを目指すことになっていると聞いています。(図—2)

こうした事例を参考に、2022 年初頭に、本州四国連絡高速道路株式会社は愛媛県とともに、瀬戸内圏全体に点在する多数のサイクリングルートを縦横無尽にネットワーク化し、瀬戸内圏全体をサイクリングで自在に周遊できるような、世界に誇るサイクリングの推進エリアとするためのプラットフォームの立ち上げを提案しました。

そのプラットフォームが、瀬戸内圏の県や中国、四国の経済連合会、地方整備局や地方運輸局等約 30 団体とともに、2022 年 10 月に設立された「Setouchi Velo 協議会」です。(写真—1)



(写真—1) Setouchi Velo 協議会

協議会には、瀬戸内圏のサイクリングルートを管理・運営する地方公共団体や団体等も参画することとしており、瀬戸内圏の市町を中心に順次構成団体の拡大を図っているところですが、協議会は、①サイクリングルートのネットワーク化、②推進エリア化、③国内外への情報発信の 3 つの柱を中心に活動を展開していくこととしています。

## 2

## サイクリングルートのネットワーク化 (Setouchi Velo ルートの設定と多機能型マッピング)

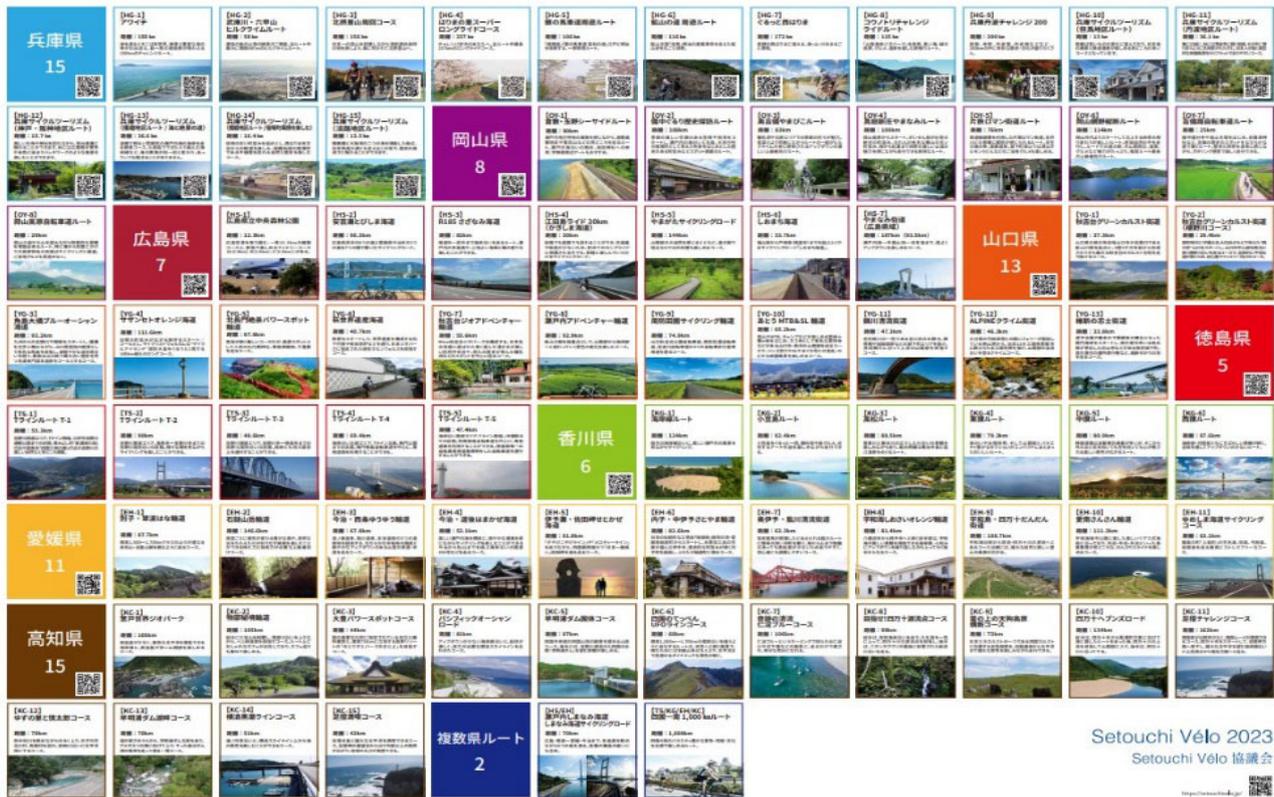
### (1) Setouchi Velo マップ

協議会では、2023 年 1 月に Setouchi Velo マップを作成しました。(写真—2)

マップには、協議会を構成する 8 県（兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県）に登録いただいた 80 のサイクリングルートを Setouchi Velo ルートとして掲載しています。兵庫県のルートは、例えば「あわいち」が HG-1 としてナンバリングされており、HG-2 が「武庫川・六甲山ヒルクライムルート」(写真—3)、HG-3 が「北摂津里山周回コース」(写真—4) というように連なっていきます。他県のルートも同様にナンバリングされ、瀬戸内圏のサイクリングルートが一覧できるようになっています。初版 75,000 万部は、高速道路のサービスエリアや道の駅、観光案内所やサイクリストの立ち寄るスポットなど約 430 箇所配布しています。

また、Setouchi Velo のホームページ上で各ルートを紹介するとともに、スマートフォンアプリでのナビ機能も導入しました。ホームページ上では、各ルートの魅力を紹介するコラム等を掲載するととも

に、新たなルートを紹介も順次掲載していくこととしています。



(写真—2) Setouchi Vélo マップ



(写真—3) 兵庫県【HG-2】  
武庫川・六甲山ヒルクライムルート



(写真—4) 兵庫県【HG-3】  
北摂里山周回コース

## (2) ルートの登録及びネットワーク化

協議会の活動の最大の特色の1つは、行政境界を越えて魅力的なサイクリングルートをつなげていくことです。

上記初版に掲載された80のルートは各県単位で登録いただいたルートですが、サイクリングルートは各県が設定しているものに限られません。瀬戸内圏の各市町の推奨するルートも数多くあり、さらにサイクリングによる地域振興を睨んで各県や市町等が次々と整備を推進しています。これらを加えていけば、その数は大幅に増えていくはずですが。協議会では、瀬戸内圏の市町にも Setouchi Velo ルートへの登録を促し、これらのルートもマップに加えていくこととしていますので、その数は急増していくでしょう。



また、サイクリストの体力や好み、目的に応じ、自由なルート選択を可能とするような多様性も追求していくこととしています。

これらの①広域周遊性、②拡張性、③多機能性、④多様性が Setouchi Velo ルートとそのデジタルマップの目指していく姿です。

## 3 サイクリングの推進エリア化

協議会の活動はルート登録・設定やマッピングに限られません。

推進エリア化も大きな目標であり、そのために① E-bike の普及、② Velo スポットの登録の2つに取り組むこととしています。

### (1) E-bike の普及

推進エリア化を図っていく上で、サイクリングを楽しむ、いわゆるサイクリストの裾野を大きく拡大していくことが重要です。

現在、サイクリングは、サイクリングジャージをビシッと着用した、アスリート体型のサイクリストの方が楽しむものだというような印象を持っている方が多いと思います。実際、「あわいち」や「まめいち」、「しまなみ縦走」を楽しむ方は自分の愛車を持ち、長年サイクリングに親しんできた正真正銘のサイクリストの方がほとんどだと思いますが、今後はサイクリングを楽しむ層をもっと拡大していくでしょう。

その鍵が E-bike です。

E-bike はいわゆる電動アシスト自転車ですが、現在は(写真—5)のようにスポーティーで格好のよい商品がどんどん普及しています。E-bike に乗れば、体力に自信のない方でも一日で数十 km、100km 前後は難なく走行することができます。

実際、筆者は BMI ? で、決してアスリートとは言えない体型ですが、E-bike で上述の「しまなみ海道」(2日で往復約 200km)、「まめいち」(1日で約 100km)、「あわいち」(1日で約 150km) を走破しました。通常のロードバイク、クロスバイクであれば到底できません。

「あわいち」は獲得標高 1000m 超。(図—4)

淡路島南部はかなりの高低差があり、サイクリストも中級以上の者でないとなかなか挑戦は難しいと言われています。そんな難関の「あわいち」に、サイクリング素人の私が挑戦し1日で廻りきることができたのも E-bike があればこそです。サイクリストだけが堪能することが許されていたサイクリングの楽しいところ、いいところを E-bike は万人に開放してくれます。E-bike が普及し、誰もが E-bike に慣れ親しむようになれば、サイクリングの対象者が格段に増えることが期待できます。



(写真—5) E-bike



(図—4) あわいち

あるプロのサイクリストの方が「ヨーロッパで高齢の恰幅の良い方がスイスイと山岳ルートに登っていくので驚いたら、E-bikeに乗っていた」と言っていました。欧米ではE-bikeが普及し老若男女を問わずサイクリングを幅広い層が楽しむようになってきているそうです。我が国でも「サイクリストのためのサイクリング」から、「老若男女、誰もが楽しむサイクリング」へのシフトが始まっています。そのシフトの先頭を瀬戸内圏が走っていく。協議会ではそうした世界を目指していきます。

E-bikeの普及のため、協議会では、瀬戸内圏の各地のルートを、プロサイクリストや有識者、メディア関係者、行政関係者等とともにE-bikeで試走する「トライアルライド」を実施することとしています。

「トライアルライド」では、多様な関係者が一緒に、各ルートの案内表示や走行ライン、サイクルステーションの状況やトイレの有無、車の走行マナーなど、ハード、ソフト両面からサイクリングルートとしての走行環境をチェックするとともに、E-bikeの走行体験を実施しています。

こうしたトライアルライドを繰り返し実施していくことで、サイクリングの普及に携わる関係者間で目指すべき方向性も共有され、圏域全体でのサイクリング環境の整備が進んでいくことも期待されます。

## (2) Velo スポットの登録（サイクリストへのホスピタリティの提供）

「トライアルライド」のような活動を通して、瀬戸内圏全体が「サイクリングの推進エリア」となり、我が国が世界に誇るサイクリングの先進地域となることを目指していきますが、「トライアルライド」に限らず、「推進エリア」化に向けて協議会で検討しているのが、Velo スポットです。

Velo スポットは、サイクリストを支援する場所です。（図—5）

現在でも各地にサイクルステーションやサイクルオアシスといった様々な名称でサイクリストを支援するスポットは存在します。こういった場所には、サイクルラック（写真—6）が置かれていたり、空気入れ（写真—7）やパンク修理機材など用具が貸し出しされていたり、様々な形でサイクリストを支援するサービスが提供されています。地域によってはこれらがルートマップで明確にされています。



（図—5）Vélo スポット  
（イメージ）



（写真—6）サイクルラック  
<https://www.photo-ac.com/>



（写真—7）無料空気入れ  
<https://www.photo-ac.com/>

こうしたサイクリストを支援する場所を徐々に増やしていくために、協議会としてこれらをVelo スポットとして登録し、上述のデジタルマッピングの中で、サイクリストが休憩できる箇所や立ち寄れる箇所を明らかにしていくことを検討しています。

走行時に限らず、サイクリストが休憩できる箇所や訪問する箇所を様々な形で増やしていくことが重要です。ここで、単に「増やしていく」だけでなく、「様々な形で」というのも重要なポイントでしょう。

サイクリングルートの中には、10数km以上にわたってトイレがなかったり、給水する場所がない場合もありますが、サイクリングルートとして推奨していくのであればできればこうした点を改善していくことが望まれ、その点では休憩箇所等を「増やしていく」のが重要です。

一方で、サイクリストの最大の目的は多くはサイクリングでしょうが、単にサイクリングを楽しむだけでなく、サイクリングをしながら、変わりゆく景色を楽しみ、地域の食、文化、風物等に触れるのを

楽しみにしている方も少なくないと思います。このため、Velo スポットは様々な形があってよいと思います。

サイクリストに対して、飲食店であれば「特別メニュー提供」、「食後のコーヒーをサービス」、「大盛り無料」など、物販店であれば「1,000円以上の購入者に記念品プレゼント」、「トイレをお貸しします」など、宿泊施設等では「日帰り入浴利用可」、「無料休憩スペース提供」など、それぞれのスポットがサイクリストを支援・応援する形を追求するのも面白いのではないのでしょうか。

サイクリストを歓迎する、サイクリストをおもてなしする、サイクリストにホスピタリティを提供する、そうした文化を形成していくことも推進エリア化には必要であり、そのための Velo スポットです。

多様な Velo スポットを登録してもらうためには、行政だけでなく、地域の商工会議所等との連携も重要であり、今後、協議会には瀬戸内圏の商工会議所等にも参加していただくことも想定されます。

### (3) サイクリングへの理解促進

さらに、推進エリア化に向けて、サイクリングに理解のある地域を形成していくことも重要です。

幹線道路をサイクリングしていると大型車に警笛をならされたり、かなりの至近距離で追いつかれたり、危険を感じることもあります。サイクリングを普及・発展させていくためには、自転車道の整備といった抜本的な対策とともに、ソフト面から、こうしたドライバーのサイクリングに対する理解を醸成していくことも重要でしょう。

このためには、サイクリストの側も、法律に則った走行ルールを遵守し、並列走行は決してしない、交差点では二段階右折を徹底する、車線の左側をキープする、といった取組を徹底し、互いに相手を認め合うような関係性を地域一体となって形成していくことが重要でしょう。

サイクリングの関係者がトラック業界の関係者と互いを理解し合える場を共有する。そうした取組も協議会の活動としてあってもよいかもしれません。

## 4 国内外への情報発信

瀬戸内圏全体としてルートのネットワーク化やサイクリングの推進エリア化を進めつつ、協議会として重点を置いて取り組んでいこうとしているのが情報発信です。

しまなみ海道は、すでに世界にその名を知られ、世界中のサイクリストが集う人気ルートになっていますが、これを圏域全体に拡げていくことが目標です。

瀬戸内圏は、アートの世界ではいくつもの著名な美術館や3年毎に開催される「瀬戸内国際芸術祭」のおかげで世界にその名を知られつつありますが、サイクリングの世界では、「Setouchi」といった言葉を覚えていただいているサイクリストはまだ少ないのではないのでしょうか。

上述した「せといち」のようなルートが広く認知され、「せといち」を目指して世界中から人が集まるようになれば、その経済効果も相当です。

台湾には、総延長約1000kmの「台湾一周」というサイクリングのルートがありますが、これを1週間から10日間ほどかけてサイクリストの方が周遊されるそうです。「サイクリストは通過するだけでお金を落とさない」「サイクリングでは地域は潤わない」といった指摘を受けることがありますが、一定程度の期間にわたり広域周遊していただくことで地元への経済効果は少なくないはずです。

瀬戸内圏をサイクリングの目的地として認知していただくことで、瀬戸内圏に多くのサイクリストが広域周遊観光にやってくる、そうした世界を創り出すためにも、しっかりと国内外に向けて情報発信してい

かなければなりません。

協議会には、地域全体の海外への情報発信を担う「せとうち DMO」が参加しており、こうした主体が持つ発信力を活用させていただいたり、上述のホームページの充実を図っていくこととしており官民一体となってサイクリングの聖地としての瀬戸内圏を国内外で情報発信していくことも期待されます。多数の方が国内外から来て、瀬戸内圏でサイクリングしてみたいと思っていただくためには、その魅力をより一層発信しなくてはなりません。

協議会としての活動はいかようにも拡がっていくことが期待されます。

## 5 おわりに

本稿では、協議会の設立趣旨や今後の展開を紹介しましたが、Setouchi Velo 協議会はまだ発足したばかりで、活動も緒に就いたばかりです。今後、その活動をしっかりと軌道にのせ、上述のような目指す姿に少しずつでも近づいていくために1つ1つ実績を積み重ねていく必要があります。また、30団体でスタートしましたが、もっと多様な、多くの主体に参画いただき、活動の幅を拡げていく必要があります。瀬戸内を世界中のサイクリストの憧れの地域とする。大きな目標に向かって一步一步歩んでいきたいと思えます。